

私の小学校時代は、昭和20年後半から31・2年の頃です。四季ごとに遊び・行事があり、夢中になって遊び動きまわっていました。

春、真っ先に思い出すのは野球です。NHK技術研究所の野球場で5月に砧小と祖師谷小の野球大会が毎年開かれていました。男子にとっては憧れの大会でした。私は三峯神社でお兄さんたちの仲間に入って、毎日のようにボールを追っていました。ある日のお兄さんからの一言「秀ちゃんは左利きだから一塁を守りな。」これが私の転機になりました。私はお箸は右に持たされ鉛筆は右に直されました。さらに「ぎっちょ、ぎっちょ」と皆からよく揶揄されました。いつしか私は左利きに劣等感を抱くようになりました。それが、一塁手では左利きが有利に作用しました。私は嬉しくて、一段と野球に熱中しました。気が付いたら、6年生で一塁手のレギュラーとして憧れの大会に出場していました。今でも、あの一言に感謝をしています。

夏は、トンボ・セミ・ザリガニとり・谷戸川での水遊び等。中でもトンボとりは独特の方法。名前は「ギン・チャン」とり。方法は地域のお兄さんたちから教わりました。陸稲(だと思えます)の畑にトンボはいました。陸稲の畑を四角に飛んでいます。陸稲の端に身を隠し、トンボが角を曲がる寸前に網で捕まえ、トンボの腹の色を見ます。水色だとさつま芋の葉で腹を覆い、糸で縛り「おとり」を作ります。再び畑の角に身を隠し「おとり」を頭上に掲げます。すると、他のトンボが「おとり」目がけて飛んできます。一番緊張する場面です。トンボが「おとり」にぶつかる瞬間に網で捕らえます。ハラハラドキドキ、スリル満点のトンボとりです。大人になって「ギン・チャン」とりについて調べてみました。「トンボの種類はギンやんま。雄の腹は水色でギンと呼ぶ。雌は黄緑色でチャンと呼ぶ」納得しました。感心しました。それ以来、言い伝えられているもの等には、何処かに真理が隠されているのかな、と思うようになりました。

秋は、祭り・お月見・ベーゴマ・竹の空中散歩等々、盛りだくさんでした。祭りは、10月1日に行われていました。学校のある日でも朝からワクワクしていました。担任の先生の「今日は山野(さんや)地区のお祭りです。山野の人は2時間で帰って良い」との言葉を聞くのが楽しみでした。2時間目が終わると脱兎のごとく家に帰りました。母親にお化粧をしてもらい、お祭り姿になって神社へ。子ども神輿に群がって遊びました。家に帰ると親戚の人たちが集まって賑やかでした。親戚の人たちからいただいたお小遣いを手に神社へ一目散。たくさん出ているお店を巡って友だちと一緒にしゃぎ回りました。それはそれは、心躍る一日でした。竹の空中散歩は、家の周りの竹林での遊びです。竹に登ると竹がしなってきます。それを利用して近くの竹をつかみ、タイミング良く飛び移ります。まるで猿です。次々に飛び移ります。あの面白さは格別でした。印象深い遊びのひとつとして鮮明に心に残っています。

冬は、竹のけん玉作り・竹馬遊び・セイの神(サイの神・どんと焼き)です。私の子どもの頃、それぞれマイナイフを持っていました。近所のお兄さんから教わったけん玉作り。友だちと悪戦苦闘しながらの取り組み。晴れた日など陽だまりに集まって「けん玉天下取りゲーム」。今思えば、懐かしいことだらけ。竹馬は、慣れてくると足の位置をドンドンと高くしました。1メートル近くになると梯子を使って竹馬に乗りました。さすがに怖くて緊張して震えたことを覚えています。セイの神では、1月7日過ぎに近所の家々を回って御札やお飾り等を集めました。その時もらったお賽銭と一緒に観音堂に持って行きました。お兄さんが鉛筆等を配ってくれました。今でも観音堂の前を通ると当時のことが甦ってきます。ありがたいことです。 原稿を書いてくださった竹内秀雄さん(砧町町会監事)→

